

第7期四国中央市ボランティア市民活動推進協議会委嘱式 及び  
平成29年度第2回ボランティア市民活動推進協議会 会議録

1. 開催日時 平成29年8月31日(木) 19時00分から22時00分まで
2. 場 所 四国中央市保健センター 1階 集団指導検診室
3. 出席者 (市長) 篠原 実  
(会長) 前田 眞  
(副会長) 新田 浩介  
(委員) 青木 ルリ、石川 弘幸、大西 裕之  
栗田 修平、笹山 久美子、宮崎 憲士  
(事務局) 市民部長 塩田 浩之  
ボランティア市民活動センター所長 河村 久仁彦  
市民交流課 守屋 伸康、大久保 隆文、青木 大、木村 称久
4. 傍聴者 なし
5. 会議内容 **【委嘱式】**
  1. 委嘱状交付
  2. 市長挨拶**【協議会】**
  1. 開会
  2. 自己紹介
  3. 会長・副会長選任
  4. 議事
    - (1) ボランティア市民活動推進協議会について (資料2・3)
    - (2) ボランティア市民活動センターについて (資料4～7)
    - (3) 第2次ボランティア市民活動推進計画について (資料8)
    - (4) 第3次ボランティア市民活動推進計画策定のためのアンケート調査について (資料9～11)
    - (5) 四国中央市社会福祉協議会評議員の推薦について (資料12・13)
  5. 閉会

6. 会議録

発言者	発言内容
市長	<p>委嘱状交付</p> <p>市長挨拶 (市長退席)</p> <p>平成 29 年度 第 2 回ボランティア市民活動推進協議会</p> <p>1. 開会</p> <p>2. 自己紹介</p> <p>3. 会長・副会長選任</p>
事務局	<p>委員の互選により、会長が前田 眞委員、副会長が新田 浩介委員となる。</p> <p>(全員賛成)</p> <p>前田 眞会長、新田 浩介副会長 挨拶</p>
会長	<p>それでは (1) ボランティア市民活動推進協議会について、事務局より願います。</p>
事務局	<p>〔(1) ボランティア市民活動推進協議会について、資料 2・3 に基づき説明〕</p>
会長	<p>今の説明について質問などはあるか。</p> <p>(質疑なし)</p>
会長	<p>次に (2) ボランティア市民活動センターについて、事務局より願います。</p>
事務局	<p>〔(2) ボランティア市民活動センターについて、資料 4～7 に基づき説明〕</p>
副会長	<p>資料 7 の市民交流棟パース (内観 1) について、市民交流棟の入口からセンターを見たときに室内が壁で見えなくなっている。利用者がセンターを利用しやすいように、外からもセンター内が見えるよう透明化を図るべきではないか。</p>
事務局	<p>市民交流棟パース (内観 1) について、壁はガラス張りになると聞いている。ただ、壁がガラス張りになってセンターの中がすべて見えてしまうと仕事がかたくなる部分もあるので、透明化を図りつつも目隠しのシールなどが貼られる予定である。</p>
委員	<p>センターのチラシについて、内容が詳しく書かれているが、蛍光色が強くみえる。詳しく書く必要はあるが、受け手が読み取りやすいようデザインはシンプルにするべきではないか。</p>

事務局	再検討したい。
会長	市民交流棟に移設後は、カウンターでの業務は行うのか。
事務局	現センター内で使用しているローカウンターを市民交流棟に移設し、カウンター業務を行うこととしている。
会長	ほかに何か意見はあるか。  (質疑なし)
会長	では、次に(3)第2次ボランティア市民活動推進計画について、事務局より願います。
事務局	〔(3)第2次ボランティア市民活動推進計画について、資料8に基づき説明〕
会長	これについて何か意見はあるか。
副会長	四国中央市第2次ボランティア市民活動推進計画(資料8)の19ページにある、①身近なボランティア情報の紹介で「インターネットやケーブルテレビなどを活用したボランティア情報の提供」とあるが、現時点でそういったツールを使った情報発信はしているのか。
事務局	現時点ではまだ具体的な取り組みはできていない。ケーブルテレビを活用したボランティア情報の提供については現在検討中である。
会長	四国中央市第2次ボランティア市民活動推進計画(資料8)の中で、ボランティアと市民活動に対する定義づけが不十分ではないか。
事務局	定義づけについては不十分な部分があるため、第3次のボランティア市民活動推進計画に落とし込んでいきたいと思っている。
委員	四国中央市第2次ボランティア市民活動推進計画(資料8)の19ページにある、②さまざまな機会やツールを利用した啓発活動で「ボランティア活性化ツールの検討」とあるが、具体的にどういったことか。
事務局	具体的には、ポイント制度などでボランティアをしたことによって何かメリットが生まれるようなことである。
委員	ボランティア活性化ツールは積極的に活用していく必要がある。活性化ツールによってボランティアをする人がもっと増えていくと思う。
会長	県によっては、認定のボランティアに参加するとポイントがもらえ、そのポイントが県施設の入場料に代わるといった制度がある。
事務局	ボランティア活性化ツールは、きっかけ作りとして有効である。 例えば、ボランティア活動の回数などに応じて、表彰するといったような制度を設けてはどうかと考えている。活動が認められることで「また頑張ろう」という気持ちが芽生え、次に繋げられるのではないかと考えている。

会長	ボランティアをした意味を明確に作ってあげると、次につながるきっかけになる。しっかり研究して実現してほしい。
会長	ほかに意見はあるか。  (質疑なし)
会長	次に(4)第3次ボランティア市民活動推進計画策定のためのアンケート調査について、事務局より願います。
事務局	〔(4)第3次ボランティア市民活動推進計画策定のためのアンケート調査について、資料9～11に基づき説明〕
会長	これについて何か意見はあるか。
委員	資料11にある市民意識調査の問8「あなたが行っているボランティア活動は次のどの分野に当てはまりますか。」や団体意識調査の問3「主にどのようなボランティア活動を行っていますか。」について、「子供」という単語が出るが、本庁舎の「こども課」があるように「子供」についてはひらがな表記のほうがいいのではないか。
委員	市民意識調査について、ボランティア活動を行うきっかけとなった情報源を伺う質問を加えてほしい。
委員	市民意識調査の問4で2、3を選択した場合には問11～問17に移動して回答していくと思うが、問17の最後に「このような環境が整備されると、あなたはボランティア活動に参加できますか。」といった質問を加えるのはどうか。
委員	追加資料にあるアンケート追加項目案については、どの調査へ追加されるのか。
事務局	追加項目案については、市民意識調査、団体意識調査、企業意識調査それぞれに追加を検討している。 また、アンケートについてはすべてがまだ検討段階であり、内容は各委員の意見を参考にしつつ、会長と協議して最終的な形にしようと思っている。
会長	団体意識調査の中には、センターの利用目的や充実度に関する問いがあるが、市民意識調査にはない。市民意識調査にも同じく加える必要があるのではないか。利用目的や充実度のアンケート結果については、センターの今後の活動の基本になると思われる。 また、各アンケートにセンターからの案内を書くのはどうか。アンケート内でも啓発ができ、センターが行うボランティア活動への取り組みのアピールになる。
委員	企業意識調査には、調査結果送付についての記載があるが、市民意識調査や団体意識調査にはない。あってもいいと思う。
会長	ほかに何か意見はあるか。  (質疑なし)

会長	次に（５）四国中央市社会福祉協議会評議員の推薦について、事務局よりお願いします。
事務局	〔（５）四国中央市社会福祉協議会評議員の推薦について、資料１２・１３に基づき説明〕  本日欠席ではあるが川口 稔委員を四国中央市社会福祉協議会の評議員として推薦したいがどうか。
会長	四国中央市社会福祉協議会の評議員について、事務局より提案のあった川口 稔委員を評議員として推薦してよろしいか。  (全員賛成)
会長	ほかにないか。  (質疑なし)
会長	ではこれにて、平成 29 年度第 2 回ボランティア市民活動推進協議会を閉会とする。  閉 会